|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 特 | ６ |  |

※提出する際，この吹き出しは削除してください。

所属部（例：小学部）を入力してください。

※提出する際，この吹き出しは削除してください。

〇〇特　第〇〇〇号

令和〇年〇月〇〇日

提出する際，このようにして提出してください。

文書番号

令和　年　　月　　日

　教育研修課長　様

学校名

校長名　　　　　　　　（公印省略）

令和３年度

６年目研修「自己評価票（研修後）」及び「在勤校研修 報告書」について（送付）

　　このことについて，次のとおり提出します。

|  |  |
| --- | --- |
| 研修対象教員　氏名 | 提出文書（様式） |
|  | 自己評価票（研修後）　（様式１） |
| 在勤校研修 報告書　　 （様式３） |
| 学習指導案 |

様式１

**自　己　評　価　票**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　岐阜県教育委員会

**１　研修対象教員**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏　　名 | 学級・HR担任 | 担当教科 | 主たる校務分掌 |
|  | 第　学年（　　　） |  |  |

＊1 学級HR担任は学年を記入し，正担任・副担任・学年係等の別は(　)に記入。

＊2 担当教科は，主に担当しているものを記入。

**２　評価**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目 | | 評価の観点 | | 自己評価 | | | | | | | |
| 研修前 | | | | 研修後 | | | |
| 学習指導 | 授業構想 | １ | 担当する幼児児童生徒の障がいの特性が具体的にわかる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ２ | 担当する幼児児童生徒の認知発達の段階がわかる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ３ | 担当する幼児児童生徒の言語発達の段階がわかる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ４ | 担当する幼児児童生徒の社会性の発達の段階がわかる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ５ | 担当する幼児児童生徒の運動や動作の発達段階・機能段階がわかる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ６ | 担当する幼児児童生徒の行動観察から変化に気づき，指導に生かすことができる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ７ | 担当する幼児児童生徒の発達検査の結果を理解し，指導に生かすことができる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ８ | 担当する幼児児童生徒本人及び保護者のニーズを把握し，実態を元に個別の指導計画を作成できる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| ９ | 担当する幼児児童生徒の実態に応じて，領域・教科を合わせた指導の単元や活動の計画を立てることができる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 授業実践 | 10 | 担当する幼児児童生徒の実態に応じた教科指導ができる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 11 | 担当する幼児児童生徒の実態に即して教材・教具を準備・作成することができる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 12 | ＩＣＴ機器を活用した授業を行うことができる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 評価改善 | 13 | 学習指導要領の内容を理解している | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 14 | 自立活動の目標と内容の６区分２７項目がわかる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 15 | 担当する幼児児童生徒の教育課程について理解している | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 16 | 自分が行った授業を客観的に評価し，改善点を見出し，次につなげることができる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 生徒指導 | 幼児児童  生徒理解 | 17 | 担当する幼児児童生徒の障がい及び疾病の特徴やアレルギー等について理解し，適切な対応方法がわかる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 18 | パニックを起こした幼児児童生徒への適切な対応方法がわかる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 生徒指導  （１）  生徒指導  （２） | 19 | 摂食・嚥下機能を理解し，担当する幼児児童生徒の摂食指導ができる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 20 | 医療的ケアについて具体的な内容や方法を理解し，養護教諭や看護師と情報を共有できる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 21 | 担当する幼児児童生徒について交流及び共同学習の目的に合った活動内容を計画し，実施することができる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| キャリア  発達支援 | 22 | 担当する幼児児童生徒本人及び保護者のニーズを把握し，実態を元に個別の教育支援計画を作成できる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 23 | 就労の仕組みや福祉制度についての知識がある | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 24 | 担当する幼児児童生徒の実態を考慮し，キャリア教育の視点をもって指導できる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 経営・分掌 | 学級経営 | 25 | 懇談や連絡帳等の手段を通じて担当する幼児児童生徒の情報を保護者に適切に伝えることができる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 連携  ・  協働 | 26 | ＴＴの有用性を理解し，教員間で連携を図った授業を展開できる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 27 | 医療や福祉機関と情報交換し，担当する幼児児童生徒の指導に生かすことができる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 28 | 特別支援学校のセンター的機能，および地域の特別支援教育に対する特別支援学校教員の役割を理解している | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 29 | 障害者差別解消法を理解し，合理的配慮の観点から適切な対応方法がわかる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 危機管理 | 30 | 担当する幼児児童生徒の発作時の処置法を理解し，適切な対応がわかる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 31 | 救命救急の方法を理解し，緊急時の対応ができる | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |
| 32 | 地震や火事など非常変災時の対応について手順を追って理解している | ４ | ３ | ２ | １ | ４ | ３ | ２ | １ |

※下記の「評価基準の目安」を参考に，該当する数字を「○」で囲んでください

□　評価基準の目安

４:達成している　　　　　　　…　適切に指導するための知識・技能が身に付いているとともに，１～３年目の教職

経験者に対して，助言をすることができる。

３:おおむね達成している　…　適切に指導するための知識・技能が身に付いている。（現在まで実際の経験は

ないが，基礎的な知識はあり，その立場になった場合には，必要となるような知

識・技能を磨きつつ，対応することができる。）

２:やや努力を要する …　指導するなかで，知識・技能の不十分さを感じている。（現在まで実際の経験は

ないが，その立場になった場合には，必要となるような知識・技能を身に付ける

ための方法を知っており，学びつつ対応することができる。）

１:努力を要する　　　　　　 …　指導する中で分からないことが多く，必要な知識・技能が身に付いていない。

（現在まで実際の経験がなく，実際の指導が困難であり，困難を解消するため

の方法を知らない。）

校長欄　※計画書と一緒に提出する際には記入せず，報告書と一緒に提出する際に記入する。

|  |  |
| --- | --- |
| ※提出する際，この欄に記載されている文は消去してください。  この欄には「研修の総括及び今後の自己研修に向けての展望及び期待」について記してください。  　作成の手順は「自身で作成⇒校長からの指導を仰ぐ⇒必要に応じて加除修正」としてください。 | |
| 令和　　年　　月　　日　　学校名  　　　　　　　　　　　　　　校長名 | （公印省略） |

（この票は，研修対象教員の自己評価と岐阜県教員育成指標に照らして，校長面談等に基づき作成する）

※提出について

・「在勤校研修 計画書」と一緒に提出する際，

「２ 自己評価（研修前）」を記入し，提出する。その際，「校長欄」は記入しない。

・「在勤校研修 報告書」と一緒に提出する際，

「２ 自己評価（研修後）」と「校長欄」に必要事項を追記し，提出する。

様式３

**【６年目研修】在勤校研修 報告書**

**１　研修対象教員**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏　　名 | 学級・HR担任 | 担当教科 | 主たる校務分掌 |
|  | 第　学年（　　　） |  |  |

＊1 学級HR担任は学年を記入し，正担任・副担任・学年係等の別は(　)に記入。

＊2 担当教科は，主に担当しているものを記入。

**２　研修内容**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **「学習指導」について** | | | | |
| 研　究　会  実施期日 | 令和　　年　　月　　日（　） | 時間 | ～ | |
| １　研修テーマ | | | | |
| ２　実施内容 | | | | |
| ３　研究会での主な発言と指導講評（指導助言）の記録 | | | | 研究会の主な参加者  ・  ・  ・  ・ |
| ４　成果と課題 | | | | |
| **「生徒指導」について** | | | | |
| １　研修テーマ | | | | |
| ２　実施内容 | | | | |
| ３　成果と課題 | | | | |
| **「経営・分掌」について** | | | | |
| １　研修テーマ | | | | |
| ２　実施内容 | | | | |
| ３　成果と課題 | | | | |

※提出する際，以下は消去してください。

１ 様式３については，Ａ４用紙１～２頁程度(表裏１枚以内)に簡潔に記述すること。

２「学習指導」の研修においては研究授業・授業研究会の実施について報告すること。

　・研修テーマに沿っていれば，実施段階での，計画との変更も可とする。

　・本報告書に，実施済の「学習指導案（略案可）」を添付して提出する。

様式１

**様式１（研修後）記入例**

**自　己　評　価　票**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　岐阜県教育委員会

**１　研修対象教員**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏　　名 | 学級・HR担任 | 担当教科 | 主たる校務分掌 |
| ○○　○○ | 第○学年（正担任） | ・自立活動  ・社会科 | 保健安全部（防災担当） |

＊1 学級HR担任は学年を記入し，正担任・副担任・学年係等の別は(　)に記入。

＊2 担当教科は，主に担当しているものを記入。

**２　評価**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 項目 | | 評価の観点 | | 自己評価 | | | | | | | |
| 研修前 | | | | 研修後 | | | |
| 学習指導 | 授業構想 | １ | 担当する幼児児童生徒の障がいの特性が具体的にわかる | ４ | ③ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| ２ | 担当する幼児児童生徒の認知発達の段階がわかる | ４ | ③ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| ３ | 担当する幼児児童生徒の言語発達の段階がわかる | ４ | ③ | ２ | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| ４ | 担当する幼児児童生徒の社会性の発達の段階がわかる | ４ | ３ | ② | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| ５ | 担当する幼児児童生徒の運動や動作の発達段階・機能段階がわかる | ４ | ③ | ２ | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| ６ | 担当する幼児児童生徒の行動観察から変化に気づき，指導に生かすことができる | ４ | ３ | ② | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| ７ | 担当する幼児児童生徒の発達検査の結果を理解し，指導に生かすことができる | ４ | ３ | ② | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| ８ | 担当する幼児児童生徒本人及び保護者のニーズを把握し，実態を元に個別の指導計画を作成できる | ４ | ３ | ② | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| ９ | 担当する幼児児童生徒の実態に応じて，領域・教科を合わせた指導の単元や活動の計画を立てることができる | ４ | ③ | ２ | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| 授業実践 | 10 | 担当する幼児児童生徒の実態に応じた教科指導ができる | ４ | ３ | ② | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 11 | 担当する幼児児童生徒の実態に即して教材・教具を準備・作成することができる | ４ | ③ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 12 | ＩＣＴ機器を活用した授業を行うことができる | ④ | ３ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 評価改善 | 13 | 学習指導要領の内容を理解している | ４ | ③ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 14 | 自立活動の目標と内容の６区分２７項目がわかる | ④ | ３ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 15 | 担当する幼児児童生徒の教育課程について理解している | ④ | ３ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 16 | 自分が行った授業を客観的に評価し，改善点を見出し，次につなげることができる | ４ | ３ | ② | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 生徒指導 | 幼児児童  生徒理解 | 17 | 担当する幼児児童生徒の障がい及び疾病の特徴やアレルギー等について理解し，適切な対応方法がわかる | ４ | ③ | ２ | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| 18 | パニックを起こした幼児児童生徒への適切な対応方法がわかる | ４ | ３ | ② | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| 生徒指導  （１）  生徒指導  （２） | 19 | 摂食・嚥下機能を理解し，担当する幼児児童生徒の摂食指導ができる | ④ | ３ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 20 | 医療的ケアについて具体的な内容や方法を理解し，養護教諭や看護師と情報を共有できる | ④ | ３ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 21 | 担当する幼児児童生徒について交流及び共同学習の目的に合った活動内容を計画し，実施することができる | ４ | ③ | ２ | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| キャリア  発達支援 | 22 | 担当する幼児児童生徒本人及び保護者のニーズを把握し，実態を元に個別の教育支援計画を作成できる | ４ | ３ | ② | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| 23 | 就労の仕組みや福祉制度についての知識がある | ４ | ③ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 24 | 担当する幼児児童生徒の実態を考慮し，キャリア教育の視点をもって指導できる | ４ | ３ | ② | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| 経営・分掌 | 学級経営 | 25 | 懇談や連絡帳等の手段を通じて担当する幼児児童生徒の情報を保護者に適切に伝えることができる | ４ | ③ | ２ | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| 連携  ・  協働 | 26 | ＴＴの有用性を理解し，教員間で連携を図った授業を展開できる | ４ | ３ | ② | １ | ４ | ３ | ② | １ |
| 27 | 医療や福祉機関と情報交換し，担当する幼児児童生徒の指導に生かすことができる | ④ | ３ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 28 | 特別支援学校のセンター的機能，および地域の特別支援教育に対する特別支援学校教員の役割を理解している | ４ | ③ | ２ | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| 29 | 障害者差別解消法を理解し，合理的配慮の観点から適切な対応方法がわかる | ４ | ３ | ② | １ | ４ | ③ | ２ | １ |
| 危機管理 | 30 | 担当する幼児児童生徒の発作時の処置法を理解し，適切な対応がわかる | ④ | ３ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 31 | 救命救急の方法を理解し，緊急時の対応ができる | ④ | ３ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |
| 32 | 地震や火事など非常変災時の対応について手順を追って理解している | ４ | ③ | ２ | １ | ④ | ３ | ２ | １ |

※下記の「評価基準の目安」を参考に，該当する数字を「○」で囲んでください

□　評価基準の目安

４:達成している　　　　　　　…　適切に指導するための知識・技能が身に付いているとともに，１～３年目の教職

経験者に対して，助言をすることができる。

３:おおむね達成している　…　適切に指導するための知識・技能が身に付いている。（現在まで実際の経験は

ないが，基礎的な知識はあり，その立場になった場合には，必要となるような知

識・技能を磨きつつ，対応することができる。）

２:やや努力を要する …　指導するなかで，知識・技能の不十分さを感じている。（現在まで実際の経験は

ないが，その立場になった場合には，必要となるような知識・技能を身に付ける

ための方法を知っており，学びつつ対応することができる。）

１:努力を要する　　　　　　 …　指導する中で分からないことが多く，必要な知識・技能が身に付いていない。

（現在まで実際の経験がなく，実際の指導が困難であり，困難を解消するため

の方法を知らない。）

校長欄　※計画書と一緒に提出する際には記入せず，報告書と一緒に提出する際に記入する。

|  |  |
| --- | --- |
| １年間の研修を通して，これまで培った肢体不自由・知的障がいの捉え方に加え，発達障がいの観点から子どもをとらえる視点を養ってきた。今後は，学習指導要領に沿った指導を心掛けていくとともに，実態のとらえと支援について教員間で伝えあい，個別の教育支援計画・指導計画の精度を上げるべく，連携を図っていきたい。また，学校防災については，ミドルリーダーとしての提言ができるレベルになってきたため，分掌長とともに，全体を意識しての防災計画立案に努めていきたい。 | |
| 令和　○年　○月　○日　　　学校名　○○特別支援学校  　　　　　　　　　　　　　　　校長名　○○　○○ | （公印省略） |

（この票は，研修対象教員の自己評価と岐阜県教員育成指標に照らして，校長面談等に基づき作成する）

様式３

**様式３ 記入例**

**【６年目研修】在勤校研修 報告書**

**１　研修対象教員**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏　　名 | 学級・HR担任 | 担当教科 | 主たる校務分掌 |
| ○○　○○ | 第○学年（正担任） | ・自立活動  ・社会科 | 保健安全部（防災担当） |

＊1 学級HR担任は学年を記入し，正担任・副担任・学年係等の別は(　)に記入。

＊2 担当教科は，主に担当しているものを記入。

**２　研修内容**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **「学習指導」について** | | | | |
| 研　究　会  実施期日 | 令和○年１２月○日（○） | 時間 | １５：００～１６：００ | |
| １　研修テーマ  『少人数での準ずる教育の教科学習における「主体的・対話的で深い学び」の在り方』 | | | | |
| ２　実施内容  　・年間を通して，全校研究テーマに沿って，学習指導要領の理解を深め，校内研究グループにて本校における教科指導の在り様を探った。  　・○市立〇中学校公表会「社会科部会」にて，「○○の単元における対話的で深い学び」について知見を得た。校内研究グループに持ち帰り，少人数での手法を検討した。  　・校内研究グループにて，Web会議システムを活用した○学校生徒との討議を計画した。  　・当初，１１月に全校研究会にて，研究授業を行う予定であったが，相手校の都合と，生徒の状態を考慮し，１２月にグループ研として行うことに変更した。  　・グループ研ではあったが，管理職の多数の参加もあり，活発な討議となった。 | | | | |
| ３　研究会での主な発言と指導講評（指導助言）の記録  　・対面で直接話すのが苦手な生徒にとって，Web会議システム活用が積極的な発信につながる有効な手段となったのではないか。  　・生徒の生き生きした姿に，日頃の心に寄り添った支援が伺える。  　・言葉は発信されていたが，深い学びまで到達していたのかは考慮の余地がある。相手と話すことのみが，対話ではない。 | | | | 研究会の主な参加者  ・校長  ・教頭  ・部主事  ・研修部長  ・グループ研の教員 |
| ４　成果と課題  　・多様な考え方に触れる機会として有効であるWeb会議システムを，ポイントをさえて使用したい。深めていくにあたっては，当校の特色を生かし，自身の内省・教師とのやりとりも「対話」ととらえていくことが必要になるとの仮説に立って，今後も進めたい。  　　研究グループとしての成果を積み重ね，当校のスタンダードを確立していきたい。  　・生徒の行動の読み解きと関係性の構築に半期を費やした。これまでの支援・今の支援・今後の支援，教科担任の支援・担任の支援・学年団の支援をつなぐべく，個別の教育支援計画・指導計画の精度を上げ，引き継いでいくことが課題となる。 | | | | |
| **「生徒指導」について** | | | | |
| １　研修テーマ  「児童生徒の心に寄り添った行動の理解とキャリア発達支援について」 | | | | |
| ２　実施内容  　・○月○日に実施された，○特別支援学校コア・スクール夏季研修「発達障がいの児童生徒の捉え方―応用行動分析の視点から―」を受講した。得た情報を実践に応用した。  　・当校のキャリア支援部より，当該生徒にとって分かりやすい将来像の描き方の情報を入手した。上記の研修にて得た情報と併せて，実践に役立てる。  　・年間を通して，実践にて得た情報を，当該生徒の担任にフィードバックし，支援計画等の精度を上げることにつなげていった。 | | | | |
| ３　成果と課題  　・応用行動分析の視点からとらえ直すことで，客観的に生徒の姿と自身の支援をとらえることができるようになった。実態を把握し課題を明確化することについては，重心であろうと発達障がいであろうと変わらないことを改めて意識することができた。  　・当校高等部生徒が使用している，自己理解のためのキャリアステップ表が，当該生徒にとっても有効であった。分掌や所属部にとらわれず，多くの情報を収集していきたい。  　・教科担任として授業のみで接することが多い生徒の「上手くいっていること・上手くいっていないこと」を，授業場面だけでなく学校生活全体としてとらえることができるようになった。「学習指導」分野にも関わるが，個別の教育支援計画の精度の向上と活用に向け，担任でないからこそ協力できること（連携の必要性）について再確認できた。 | | | | |
| **「経営・分掌」について** | | | | |
| １　研修テーマ  「児童生徒自身の防災安全についての意識を高めることを目指して」 | | | | |
| ２　実施内容  　・ＰＴＡとの連携防災研修に計画段階から積極的に関わり，○大学〇教授の防災講話への材料を提供するとともに，児童生徒と共に学ぶにあたっての留意点等を確認した。  　・講話を機に，ＰＴＡと連携して，地域・家庭・学校における防災アンケートを行った。結果に基づき，例年行われていた地域・近隣〇学校総合防災訓練への参加を計画した。  　・実際は総合防災訓練の一部を担う形になり，当校の「命を守る訓練」に，地域の方が一部参加する形式になった。実施状況を踏まえ，次年度以降の本格実施につなげる。 | | | | |
| ３　成果と課題  　・○大学〇教授の防災教育に関する書籍・考え方等を，研修の計画段階から学び，児童生徒自身の防災意識の高揚の大切さについて改めて知るとともに，そのための小・中学校における具体の方途を知ることができた。  　・ＰＴＡの研修会は渉外部の担当，「命を守る訓練」は保健安全部の担当といったように区切って捉えていた学校行事を，研修を機に，「児童生徒の安全意識の向上」という視点で整理することができた。  　・総合防災訓練については，地域の方への発信と助言を得る機会ともなった。トピックス的なものに留まらないようにするため，日頃のショート訓練と，非日常での訓練を上手く組み合わせつつ進めていきたい。 | | | | |

**※　別添，「学習指導」分野　添付指導案例**

○○部　第○学年○組「（領域・教科名）」学習指導略案

|  |
| --- |
| 日　時：令和○○年○○月○○日（○）  　　　　○○：○○～○○：○○  場　所：○○部○年○組教室  授業者：○○　○○（Ｔ１），○○　○○（Ｔ２），  　　　　○○　○○（Ｔ３） |

１　単元（題材）名「・・・・・・・・・・・・」

２　単元（題材）の概要

　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

３　児童（生徒）の実態【自立活動６区分２７項目を踏まえて】

　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

４　本時における願う姿【自立活動６区分２７項目を踏まえて】

（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

　（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

５　本時の展開　（○時間目／全○時間）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 時配(分) | ◎児童（生徒）の活動（願う姿）／※活動における支援（合理的配慮） | | | ●備考  (共通教材等) |
| 児童（生徒）Ａ | 児童（生徒）Ｂ | 児童（生徒）Ｃ |
| ○ | ◎・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  ・・・・・・。 | ◎・・・・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  ・・・・・・・・。 | ◎・・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  ・・・・・・。 | ●・・・・  ●・・・ |
| ○○ | ◎・・・・・・・・・・  ・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  　・・・・・・・・・・  ・・・・・・。 | ◎・・・・・・・・・・  ・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  　・・・・・・・・・・  ・・・・・・。 | ◎・・・・・・・・・・  ・・・・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  　・・・・・・・・・・  ・・・・・・。 | ●・・・・・ |
| ○○ | ◎・・・・・・・・・・  ・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  　・・・・・・・・・・  ・・・・・・。  ◎・・・・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  ・・・・・・。 | ◎・・・・・・・・・・  ・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  　・・・・・・・・・・  ・・・・・。  ◎・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  ・・・・・・・・・。 | ◎・・・・・・・・・・  ・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  　・・・・・・・・・・  ・・・・・・・・。  ◎・・・・・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  ・・・・・・。 | ●・・・・  ●・・・・ |
| ○○ | ◎・・・・・・・・・・  ・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  　・・・・・・・・・・  ・・・・。 | ◎・・・・・・・・・・  ・・・・。  ※・・・・・・・・・・  　・・・・・・・・・・  ・・・・・・。 | ◎・・・・・・・・・・  ・・。  ※・・・・・・・・・・  　・・・・・・・・・・  ・・・・・・。 | ●・・・・・ |
| ○ | ◎・・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  ・・・・・・。 | ◎・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  ・・・・・・。 | ◎・・・・・・・・・。  ※・・・・・・・・・・  ・・・・・・・・・。 | ●・・・・・  ●・・・ |

６　本時の評価の観点【自立活動６区分２７項目を踏まえて】

（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。

　（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・。